

佳作

輝け、未来への自分

宮城県仙台市立鶴谷中学校

1年 長谷川 結花

私は小学校の頃から、看護師になることを目標にしてきました。

看護師を目指したきっかけは、新型コロナウイルスによる患者数が増加し、医師と看護師が不足している中、多くの人々のために懸命に働いている医療従事者の姿をニュースで見たことでした。そして、そのニュースの中で、看護師が一人一人に寄り添い、思いやりのある対応をしている姿を見て、私も病気の人や、不自由な生活をしている人の役に立ちたいと思うようになりました。

また、尊敬する兄が、医師になるために努力を重ね、医学部に入学したことも一つの理由です。身近にいる兄が、夢をかなえようと努力をする姿を目の当たりにし、私も兄のように夢をかなえることができるように努力し、看護師になる夢を必ずかなえたいと強く思いました。

しかし、看護師への夢を一変させる出会いがありました。それは子宮頸がんの予防接種のために受診した産婦人科医院での出来事です。初めて行った病院の待合室で周りを見渡すと、私のような学生から、グレイヘアの女性まで、幅広い年代の患者さんが診察を待っていました。私が中待合室で診察を待っていたときのことです。手術着を着て診察室から手術室へさっそうと向かう院長先生の姿を見て、とてもカッコよく素敵だなと心がひかれました。そして、予防接種で何度か通っているうちに、院長先生の患者さんへの心配りや看護師へのテキパキとした指示を見て、院長先生に対して憧れの気持ちを抱くようになりました。

また、母が婦人科系の病気で産婦人科に長期間通院していることを知りました。母が重い病気にかかっているのではないかと、とても心配な気持ちでいっぱいになりました。そして、その不安に思った気持ちと同時に、家族である大切な母を助けたいと強く思いました。また、母と同じような病気を抱えている人を治し、患者さん本人はもちろん、患者さんの大切な家族の不安や心配を取り除くことのできる医師になりたいと思いました。

産婦人科医は、母体と胎児の健康や出産を管理し、必要に応じて緊急手術を行うなどとても責任感のある仕事ですが、自分の手で一人でも多くの人を助け、たくさんの人を笑顔にしたいと思います。

産婦人科医は妊娠や出産に関する医療だけではなく、若い女性のケアや高齢女性の体のことまでいろいろな年代の体のフォローをします。私も女性の体の

悩みや心の悩みを聞いて、常に患者さんに安心を与えることができ、私の病院に通いやすくなるような医師になりたいです。そして、生命の誕生と一緒に喜び、女性の一生に寄り添うことができる素晴らしい医師になりたいです。

私が将来、産婦人科医になるために、今からでもできることがあります。

一つ目は、コミュニケーション能力を高めることです。産婦人科医院にくる患者さんの中には、不安や心配な気持ちを抱えてくる人がたくさんいると思います。私がコミュニケーション能力を身に付け、患者さんの気持ちを理解し、不安や心配をなくし、何でも話すことができる関係性を築きたいです。そのために、友人や家族の気持ちに寄り添い、笑顔で明るく接することを心がけていきます。

二つ目は、医師国家試験に合格するために、一生懸命日々の勉強に励むことです。人の健康に関わる職業だからこそ、日々の努力を忘れずに過ごしていきます。

三つ目は、精神的な強さを持つことです。何においても諦めないということが大切だと思います。そのために物事を前向きに考えることや継続すること、粘り強く考えて成功に導いていくことを意識していきます。この三つのことを忘れずに、生活して将来につなげていきたいです。

10年後、20年後の私は何をしていますか。産婦人科という夢を実現しているのでしょうか。病気を抱えている人々や、助けが必要な多くの人々を笑顔にすることはできていますか。この夢がかなうと信じて、常に前を向き、誰よりも輝いてください。

頑張れ未来の私。